

日本原子力学会 核燃料部会
第49回全体会議 議事録

日時 : 2022年3月16日(水) 12:10~12:50
場所 : オンライン会議(2022年春の年会 I会場, Zoom)
出席 : 29名

会議冒頭、加藤部会長から、開催の挨拶を実施した。次に、会議資料を用いて庶務幹事から活動報告および今後の活動計画を説明するとともに、部会長、副部会長の選任等について、審議を実施した。また、学会講演賞の受賞者を紹介した。

1. 活動報告

次の通り、報告があり、特に質問や意見はなかった。

(1) 全体会議

- ・ 2022年3月16日(水) 12:10~ オンライン会議
(2022年春の年会 I会場, Zoom)

(2) 運営小委員会 (いずれもオンライン会議 (webex))

- ・ 2021年度 第1回 2021年 4月22日(木)
- ・ 2021年度 第2回 2021年 7月14日(水)
- ・ 2021年度 第3回 2021年 11月1日(月)
- ・ 2021年度 第4回 2022年 2月18日(金)

(3) 企画小委員会 (いずれもオンライン会議 (webex))

- ・ 2021年度 第1回 2021年 4月12日(月)
- ・ 2021年度 第2回 2021年 10月18日(月)
- ・ 2021年度 第3回 2022年 2月10日(木)

(4) 夏期セミナー

- ・ 日時 : 2021年8月10日(火) ~11日(水)
- ・ 場所 : オンライン開催
- ・ 参加者 : 159名

(5) 原子力学会 年会・大会企画セッション

- ・ 2021年秋の大会企画セッション 部会セッション
「多様な原子燃料の概念と基礎設計~将来の原子炉のための燃料開発~」
(前回企画セッションのテーマを継続討論)
① 多様な燃料形態と研究開発の展望

- ② 軽水炉燃料
- ③ MOX 燃料
- ④ 金属燃料
- ⑤ 窒化物燃料
- ⑥ 高温ガス炉燃料
- ⑦ 熔融塩燃料
- ⑧ 総合討論

- ・ 2022 年春の年会企画セッション 部会セッション
(計算科学技術部会と合同)

- ① 公開燃料コード FEMAXI-8 における軽水炉燃料挙動モデル整備の現状と課題
- ② 高速炉 MOX 燃料挙動のシミュレーション解析技術開発
- ③ 構造材料を対象とした分子シミュレーションの現状と課題
- ④ 計算科学を用いた核燃料物性研究

(6) 国際会議・セミナー

- ・ 国際会議 TopFuel2021(2021 年 10 月 24 日～28 日、スペイン)

2021 年 10 月 24 日(日)から 28 日(木)までスペイン カンタブリア州サンタンデルの Peninsula of La Magdalena ホテルにおいて「TopFuel 2021」が開催された。本国際会議は、アジア地域(日中韓)⇒欧州(ENS)⇒米国(ANS)の持ち回りで毎年開かれている軽水炉燃料に関する国際会議であり、アジア地域では日⇒韓⇒中での持ち回り開催となっている。COVID-19 の世界的なパンデミックにより、昨年(2020 年)に中国で開催が予定されていた WRFPM2020 が中止となったため、今回は 2 年ぶりの開催となった。今回開催された TopFuel 2021 も COVID-19 の影響を受け、開催時期を延期し、かつ現地における従来型のオンサイト参加とリモート参加を組み合わせたハイブリット型での開催となった。

COVID-19 の混乱の中ではあったが、300 名を超える多くの軽水炉燃料の技術者、研究者が参加する盛況な学会となり、口頭発表、ポスター発表共に活発な議論が行われた。

(7) 第 10 回部会賞(奨励賞)の選考

- ・ 応募無し

(8) 部会賞(2021 春の年会 学会講演賞)の選考

- ・ 岡崎 陽香(福井大学)

「マイナーアクチニド含有低除染燃料による高速炉リサイクルの実証研究

(4) 非定常平面熱源法におけるペレット半径方向の熱伝導率測定技術の開発」

(9) 部会賞（2021 秋の大会 学会講演賞）の選考

次の 2 件の受賞を決定した。

- ・ 中森 文博（電中研）
「Nb 添加ジルコニウム合金の微細組織と元素分布に及ぼす照射の影響
(2)Zr イオン照射 Zr-0.5Nb 合金の原子プローブ分析」
- ・ 岡田 裕史（三菱原子燃料）
「早期実用化に向けた PWR 向け事故耐性燃料被覆管（コーティング被覆管）の開発」

2. 令和 2 年度収支見通しおよび令和 3 年度予算（報告）

令和 3 年度は、夏期セミナーが水化学部会、材料部会との 3 部会の合同開催であったこと、令和 4 年度は web 開催で検討しているものの、具体的には今後詰めていく予定であり、現状昨年度と同様に現地開催の前提で計上していること等を報告した。

3. 部会長等の選任（審議）

部会長、副部会長の選任について、次の通り、承認した。

(1) 部会長の選任

- 加藤 正人（日本原子力研究開発機構）【再任】

(2) 副部会長の選任

- 佐藤 勇（東京都市大学）【再任】
- 大江 晃（原子燃料工業）⇒ 尾形 孝成（電力中央研究所）【新任】
（大江現副部会長は、運営小委員として留任）

(3) 運営小委員の選任・退任

- 篠原 靖周（MH I 原子力研究開発株式会社（旧ニュークリア・デベロップメント株式会社））【退任】
⇒ 樽松 繁（MH I 原子力研究開発株式会社（旧ニュークリア・デベロップメント株式会社））【新任】
- 谷口 良則（原子燃料工業）【退任】
⇒ 片山 将仁（原子燃料工業）【新任】

4. 部会長等選任ルール（審議）

別紙のとおりとすることで、承認した。

5. 2022 年度業務担当（報告）

以下に示すとおり報告し、特に質問や意見はなかった。

担当		2022 年度担当者
広報 部会報		[東京大学] 阿部委員 [中部電力] 内川委員
国際活動		[東京都市大学] 佐藤副部長
国内企画(横断活動、年会時企画)		[福井大学] 宇埜委員、[日本原子力研究開発機構] 川西委員
庶務幹事（財務含む）		[関西電力] 尾家委員、 [電源開発] 大谷委員（10月交代）
夏期セミナー幹事		[九州大学] 橋爪委員、[日本原燃] 高田委員
部会代表	部会等運営委員	[原子燃料工業] 大江委員（現副部長） [電力中央研究所] 尾形副部長候補(7月交代)
	代議員	[日本原子力研究開発機構] 加藤部長 [原子燃料工業] 大江委員（現副部長）
企画小委員会委員長		[東京都市大学] 佐藤副部長

6. 今後の活動予定（報告）

- (1) 部会報 : 第 57 号（2022 年 5 月頃発行予定）
- (2) 夏期セミナー : オンラインにて 8 月下旬頃に開催予定。
- (3) 国際会議・セミナー : 国際会議 TopFuel2022（2022 年 10 月 9～13 日、アメリカ）
- (4) 運営小委員会 : 2022 年度第一回運営小委員会（2021 年 4 月 27 日）
- (5) 全体会議 : 2023 年春の年会時（開催時期、開催場所未定）

以 上

部会長等選任ルール（令和 3 年度第四回運営小委員会提案）

現在、核燃料部会は、部会の活動を活性化するために部会長 1 名を副部会長 2 名が補佐する体制としております。これまで部会長は、原則大学および JAEA の出身者である副部会長を次期部会長候補としてきましたが、幅広い人材の有効活用を目的とし、部会長は出身元によらず、過去の部会長または副部会長経験者を候補とすることに変更します。

なお、このご提案は部会の規約と内規の変更を伴うものではありません。

対応：

○部会長は、原則として過去の部会長または副部会長経験者を候補とし、部会長の任期満了等による交代の都度、選出する。

○副部会長は部会に所属する会員より選出し、1 名は原則大学および JAEA の出身者とし、もう 1 名の副部会長は原則産業界（大学・JAEA 以外）の出身者とする。

○任期は 1 年とし、再任は妨げないが、原則最長 2 年とする。

○副部会長の担当：

副部会長 2 名で、下記を分担する。

原子力学会代議員、核燃料部会企画小委員会の委員長、原子力学会部会等運営委員会の委員

○新体制への移行

令和 3 年度は移行期間とする。令和 4 年度以降の体制に本ルールを適用する。

○手続：令和 3 年度の運営小委にて審議し、令和 4 年春の年会時の全体会議にて承認を得る。

○その他

今後、部会長と副部会長の選出（再任を含む）は、部会運営小委員会の委員業務分担と一緒に管理し、年度末の部会全体会議の際に次年度の承認を得る。

なお、部会長と副部会長は本部会員の互選により選出する（規約）。